

平成29年度第2回地方独立行政法人山梨県立病院機構評価委員会 会議録

- 1 日時 平成29年8月21日(月)午後6時30分～午後7時10分
- 2 場所 地方独立行政法人山梨県立病院機構県立中央病院 多目的ホール
- 3 出席者 委員 小沼省二 木内博之 波木井昇 古屋玉枝  
法人本部 小俣理事長 神宮寺県立中央病院長 藤井県立北病院長  
内藤理事(病院機構本部事務局長) 病院機構職員  
事務局 宮崎医務課長 菊島医務課総括課長補佐 医務課職員(事務局)

司会：開会

事務局：(業務実績評価書等について説明)

委員長：何かご質問やご意見などありますでしょうか。

委員：救命救急センターの看護師の配置について、十分な体制になっているのか伺いたい。

病院機構理事：院内において、必要な人員を配置している。

委員：県内どこの地域の救急体制も厳しい状況であり、中央病院に対する受け入れ圧力がかかっており、県を含めて、県内の救急医療について検討する時機に入っているのではないかと。

医務課長：初期救急、二次救急について中央病院で受け入れてもらうというのは、委員ご指摘のとおり、本来の姿ではないと考えている。県や各医師会等を含め、県内の広域化や体制強化について議論しているところである。また、医療計画の策定にあたっては検討しているところであり、救急体制において見直しが必要な部分については検討していきたいと考えている。

委員：救急の受け入れについて影響は生じているのか。

病院機構理事長：初期救急、二次救急が増えており、救急のコンセプトを変えないと応じきれない部分がある。行政の配慮も必要だが、病院としてはマンパワーとして若い医師や看護師が来てくれるかどうかは根源的な問題であると思う。そのうえで行政の指導もお願いしたい。

委員長：全体評価について、何かありますでしょうか。

委員：薬剤紛失事案や輸血医療事故があったが、前年度と比べ、S評価またA評価が増えており、様々な取り組みも行っていることから、優れているという評価で良いのではないかと。

(他の委員も同感との意見)

委員長： 前年度以上の評価数値が出ているので、「優れている」という評価としたいと思う。

(審議終了)